



日程：2017年8月5日（土）
 参加：7生協48名（大人38名、子ども10名）
 内訳：パルシステム東京13名、東都生協4名、
 東京南部生協4名、東京ほくと医療生協4名、
 東京保健生協15名、全労済東京都本部14名、
 東京都生協連2名（事務局）



今年は「ヒロシマの心を次世代のあなたへ～あなたは何を継承しますか～」をテーマに、開催目的を「72年前のきのこ雲の下での出来事や高齢化が進む被爆者の想いを学ぶ場として取り組みます」「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名など、核兵器廃絶に向けて取り組みます」「2020年開催予定の次期NPT再検討会議への気運づくりに向けて、世論を喚起し、次世代に向けた核兵器廃絶の継承活動を広げる取り組みをします」としてピースアクションinヒロシマが開催されました。

各生協では独自に事前学習を行い、日本生協連などが主催する「子ども平和会議」や「虹のひろば」に参加しました。夕方からの東京都生協連主催「被爆者との交流」では被爆者の方から証言をお聴きし、夕食をとりながら参加者どうし交流を深めました。

◆虹のひろば 広島県立総合体育館グリーンアリーナにて



《虹のステージ》

オープニングは、広島市立東原中学校吹奏楽部 総勢50名による演奏。「聴いて下さる方々に感動を！」を合言葉に練習したそうです。



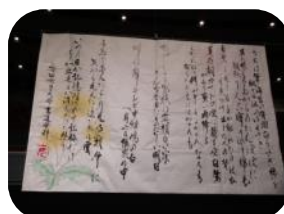
続いて演劇、広島市立沼田高校演劇部による「風の電車」が上演。広島を颯爽と走るチンチン電車。かつてその電車に乗務し懸命に働いていた少女たちがいました。そして、全国の生協で取り組んでいる「ヒバクシャ国際署名」の呼びかけ人の一人、田中熙巳さんからビデオメッセージが届けられました。

《みんなのひろば》

広島市立基町高校の生徒が被爆者と共同で作上げた「原爆の絵」展示や安田女子大学書道部による大書パフォーマンス、広島県立福山工業高校の計算技術研究部が制作した爆心地の被爆前後の状況をVRで仮想体験するコーナーなど、各生協や団体の展示・体験のコーナーがありました。



日本被団協の「原爆と人間」パネル展や広島市立基町高校の生徒が書いた「原爆の絵」



大書パフォーマンス



VR体験・「焼け野原になったあの日」を仮想体験



「2017子ども平和会議」の紹介とアピール文を読み上げました。

フィナーレは全国の組合員を歌でお迎えしようと結成された、虹のひろば合唱団。「世界の子どもたちが」など3曲を合唱

◆「被爆者との交流～被爆証言をお聴きする集い～」& 交流会 広島YMCAにて

今年の被爆証言は、広島医療生協「原爆被害者の会」綿崎直子さんと植松由紀子さんのお二人からお話をお聴きしました。進行は広島医療生協の福原さん、川上さんにご協力いただきました。植松さんは手製の人形を用いて、綿崎さんは当日の様子を絵に描いてお話して下さり当時の凄まじい様子がとてもよくわかりました。原爆被害者の会は1974年広島医療生協に集う原爆被害者とそのご家族、ご遺族により結成され、核兵器を世界からなくすための活動をしています。お二人のお話を傾聴し、当時に想いをはせて私たちに何ができるのかを考える機会となりました。



植松さん
爆心地から 4.1 km
当時5歳

自宅の縁側で弟と遊んでいたとき、ものすごい爆風に襲われ、一瞬のうちにござがバァ——ッとめくれて二人をくるみ、そのまんま裏のきび畑にボンと吹き飛ばされた。家のガラス戸とか障子とか、建具まで全部放り出されました。でも私たちは、ござのおかげでけがはしてないんです。道路は逃げてくる人間の行列でいっぱいになり、みんな八方へ散って逃げるんだよね、市内より遠くへ。公園は死体がいっぱい、どこもかしこも焼き場になっていました。2～3日でウジ虫がわいて、あっちでもこっちでも火をつけて煙が何日も続きました。結婚するとき、被爆者であることは隠してたんです。黙って結婚して無事に子どもが産まれてから被爆者手帳をもらいました。



登校の準備をしていたとき、すごい光が目にはパーンと飛び込んできて、爆弾が落ちたんじゃと思い防空壕へ駆け出そうと思った瞬間、今度はゴ——と、それはもう物凄い音。気がつくときを失って家の下敷きになっていました。父はその日、徴用工員で造船所に行っており不在でしたが、畳や瓦から父の机が私を守ってくれたと思いました。1年生の妹は学校が楽しくて、早く登校し神社の石段で光を浴び大火傷を負ってしまいました。市内は大火災。父は翌朝やっとのことで山の方を通り、大火傷の妹を見つけて帰ってきました。終戦を迎え病気で寝とる妹に食べ物一つなく、友人を頼り江波山方面へ移りました。近所の人は、私には何もないと気付いてかぼちゃやら団子を一つつ置いて下さる。とてもありがたかったです。



綿崎さん
爆心地から 1.6 km、当時10歳、
国民学校5年生。

参加アンケートより

《被爆者の方の体験を聞いての感想》

- 戦争、特に核兵器の被害は人の一生を大きく狂わせてしまう。こんな悲惨なことを二度と起こしてはならない。(60歳代～男性)
- 戦争で亡くなられた方のお話や爆弾のお話を聞いて涙が出そうになった。戦争のことがわかって悲しさもいっぱいでした。(～10歳代女性)
- 原爆を落とされた時の状況がどれだけ凄まじかったかを感じることができた。写真や絵だけではない細かな風景を思い浮かべることができた。(30歳代女性)

《ピースアクション in ヒロシマに参加して》

- 虹のひろばに参加して、若い世代の方達にしっかりと原爆の体験が伝わっていて頼もしく、明るい未来を感じた。(40歳代女性)
- 全国から集まって来た人達が繋がって一緒に平和を願う取り組みは大事なことだと思った。(30歳代)
- 高校生の劇を見て当時の人達の姿が想像でき、一人一人に色々な物語があったのだろうと考えさせられた。(40歳代女性)

◆8月6日(日)平和記念式典 平和記念公園にて

朝から強い日差しが照りつけていました。式典会場は、広島平和祈念資料館の耐震工事のため狭くなっていましたが参列者は約5万人。「平和の鐘」が響き渡る中、式典に参加した多くの方々とともに、核兵器廃絶と恒久平和の実現を祈り黙祷し、終了後には原爆慰霊碑に献花、式典に参加した多くの人々とともに核なき平和な世界を願いました。

